*六〇三七1（次行）
朱書「天象運行」　是を以て同じく是れ一日月、以て東行を爲し、以て西行を爲す、
*六〇三七2　是を以て同じく是れ一日月、以て南煦を爲し、以て北煦を爲す、
*六〇三八−六九　・・・削除・・・　（欄外上段追記）
*六〇七〇　地質は止物なり、
六〇七一　天象は動物なり、
六〇七二　天行は地を周る、
六〇七三　象行は天を周る、
六〇七四　天行は象を回し。象は翻えって地を周る。（D資料34左冒頭△印）
*六〇七五　日は西線を環って一點を成し、一盈一縮を示す、而して一周天は其の中に在る、
*六〇七六　而して其の間は、星は東に移り、天は西に移る、
*六〇七七　月は月道を環って一轉を成し、一遲一疾を示す、而して一周天は其の外に出づ、
六〇七八　而して其の間は、日は東に往き、交西に後る、故に
六〇七九　周天の會期は。各天の成紀に非ざるなり。
六〇八〇　日月の天を周るを順行と爲し、
六〇八一　地を周るを逆行と爲すは、神爲なり。
六〇八二　天の日に會すれば則ち一歲成り、
六〇八三　日の地に會すれば則ち一日成るは、天成なり。是を以て
六〇八四　日月の體は、會して朔成り、違いて望成る、

六〇八五　運轉の線は、會して分成り、違いて至成る、
六〇八六　分なる者は春秋の中なり、
六〇八七　至なる者は冬夏の端なり、
*六〇八八　混地二面。一面一背。故に
六〇八九　我の居る所を面と爲し。居らざる所を背と爲す。
六〇九〇　面する所は觀る可し、
六〇九一　背する所は察す可し、故に
*六〇九二　面北の人は南を背にす、故に
六〇九三　日は北すれば則ち夏なり、
六〇九四　南すれば則ち冬なり、
六〇九五　北向の衢に當れば則ち春なり、
六〇九六　南向の衢に當れば則ち秋なり、
六〇九七　面南の地は北を背にす、
六〇九八　日は北すれば則ち冬なり、
六〇九九　南すれば則ち夏なり、
六一〇〇　北向の衢に當れば則ち秋なり、
六一〇一　南向の衢に當れば則ち春なり、故に
六一〇二−〇三　混地の經用は。一邊は雪を降らせば、
六一〇四　一邊は雷を發す、是を以て

(I 444b)

六一〇五　面背を分てば、則ち晝夜冬夏有り、
六一〇六　混地を以てすれば則ち夏卽冬なり、夜卽晝なり、
六一〇七*−〇八　・・・削除・・・　（小字傍記につき削除。）
六一〇九　是を以て會違交錯の狀は。日は天を周りて東し、西線を依違して西す、
六一一〇　月は天を周りて東し、東線を依違して西す、
六一一一　月の東線を一周するを、一章と曰う　（安永本から復元。）
六一一二　日の西線を一周するを、一紀と曰う　（同前。）
六一一三　順逆の數う可き者成る。
六一一四　地道は靜にして易わる、
六一一五*　天道は動にして定まる、故に
六一一六*　地物の往來は、亂れて變ず、
六一一七*　天物の往來は、錯りて定す、
六一一八　日月運轉の會違は。人之を止地に驗し。而して其の紀を認む。
六一一九　日の一周地は。之を一百に刻す。
六一二〇　日月一會。三十日に儉す。故に
六一二一　日一周天の頃は。天を爲して轉ぜらる。周地すること三百六十五にして贏る。
六一二二　月と相い會すること。一十二にして贏る。贏るを得て閏を立つ。故に
六一二三　日と曰い。月と曰い。歲と曰い。閏と曰うは。
六一二四　交錯の會に成る者なり。若し芸芸の數を以て。

(PB 411)

六一二五　實日月の紀なりと爲さば。則ち亦た焉んぞ神爲の運を知らん。夫れ
六一二六　天の數。能く無數を積むと雖も。而も亦た一なるのみ。故に
六一二七　奇偶は計を以て之を紀す。皆な人爲に出づ。
六一二八　成る者は。天なり。成る者の天に出づるを知りて。而して
六一二九　爲す者の天に非ざるを知らず。人の數に眩するなり。
六一三〇*　運する者は唯だ運す。各行は運轉し。引きて其の極を見ず。
六一三一*　人は天行の神爲を觀んと欲す。
六一三二*　故に彼の百刻二十九日。十二月。三百六十五日等の數を置きて。而して
六一三三*　各各の一轉。會否は其の間に成るを知る。此れ
六一三四　回りて復する者の常に始終を成し。
六一三五　引きて行く者の竟に始終無き所なり。唯だ人は。
六一三六　得て此の坱坱を度す、
六一三七　得て此の衰衰を刻す、　此の故に
六一三八　長逝する者は、紀す可き者無し、
六一三九　往復する者は、以て數う可きなり、
六一四〇*　日月星辰は。各運遲疾を成す。一轉の問を觀るに。歩に緩急有り。
六一四一　各各一轉。其の時に違う無し。
六一四二*　故に常に平行に歸す。歸すと雖も而も各各相い與せず。
六一四三　相い與せずと雖も。而も計は日の轉に遇いて一周地するより肇まる。故に

(I 445a)

(PB 412)

六一四四　其の氣轉象運は。氣は一に象は各なり。日の頃。
六一四五　計りて一百と爲さば。則ち轉の一周地は。則ち九十九刻の餘なり。
六一四六　日一百刻、月一百零三刻餘、　是れ日月の逆行なり、
六一四七　日の周天、三萬六千五百二十三刻餘、
六一四八　月の周天、二千七百三十二刻餘、是れ日月の順行なり、
六一四九　月道の西して東線を一周すること、六十八萬數百餘刻、
六一五〇　順行一周すれば、則ち逆行六千五百七十七回餘、
六一五一　日道の西して西線を一周すること、凡そ若干億、
六一五二　順行一周すれば、則ち逆行の日は其の刻に應ずるなり、故に
六一五三　西する者を逆行の日月と爲す、
六一五四　東する者を順行の日月と爲す、
六一五五　其の會違を説けば。則ち月は　半周天にして。而して日と望せず。
*六一五六　更に百十刻餘を進めて朔と爲す。一周天にして。而して日に及ばず。
六一五七　又た二百二十刻餘を進めて朔を爲す。日は三百六十五周にして。
六一五八　而して轉は三百六十六周なり。蓋し
六一五九　天道は常に成る、故に其の會は差わず、人は之を計るを得る、
六一六〇　地道は變を爲す、故に會否は常無し、　之を計る可からず、故に
六一六一　曆紀を以て之を計れば。則ち
六一六二　日の地を一周す、之を一日と爲す、

六一六三　日の月を一周す、之を一月と爲す、
六一六四　日の天を一周す、之を一歳と爲す、
六一六五　日は月に十二會す、之を一年と爲す、
六一六六　年なる者は。歳の餘を得て閏を置く。
六一六七　之を循環の間に均しくして。寒暑を差わざらしむる者なり。是の故に
六一六八　天を以て之を言えば。轉ずる者は西轉一始終して。而して復た相い積む。
六一六九　曆の紀する所の日は、則ち其の逆行の地の舊位に復するの期なり、而して
六一七〇　月の逆行は則ち標せず、
*六一七一　一歳は則ち其の順行して天の舊点に復するの期なり、而して
六一七二　月の順行は則ち日の合を數う、故に
六一七三　一月の紀なる者は、日に及ぶの時なり、
*六一七三1（復元）　而して月の自行は、遲疾に見わる、遲疾は一月の紀に及ばず、
六一七四　一歳の紀なる者は、日の舊点に復するの時なり、而して
*六一七五　日の自行は。盈縮に於て見る。盈縮は還りて一歳の經を過ぐ、故に
六一七六　今の曆は。日月の會期を紀して。其の周紀を謂うに非ず。故に
六一七七　月は常に明魄を半にす。朔望は。地より望むに成る。
六一七八　日月は各一周。閏餘は則ち會を以て紀するに成る。
*六一七九　是を以て地なる者は一圓塊。長線に繫りて止まる。
六一八〇　天は地と反す、

(PB 413)

(I 445b)

六一八一　日は地と比す、
六一八二　故に日の逆行する者は、東西に由る、晝夜の成る所、群動の動息は之に率う、
六一八三　順行する者は、南北に由る、冬夏の成る所、萬物の發收は之と與にす、
六一八四　烟起り氣溼り、雷發し雪結び、
六一八五　鳥獸の氂革し、艸木の榮枯するは、物の發收に從うなり、
六一八六　風狂い雨旋り、地震え天鳴るは、物の鬱發を爲すなり、